

経営比較分析表（令和5年度決算）

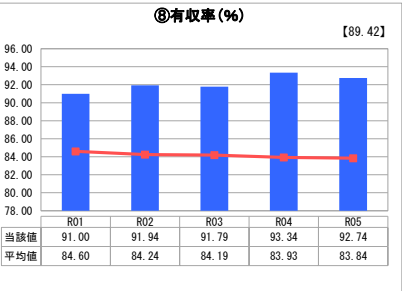
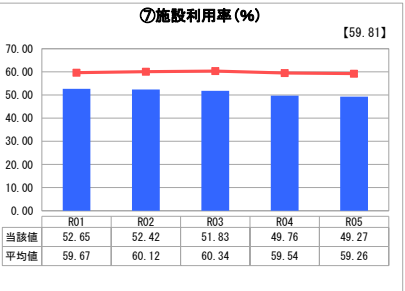
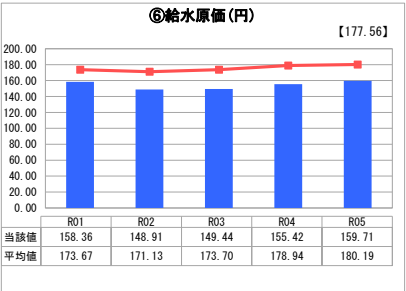
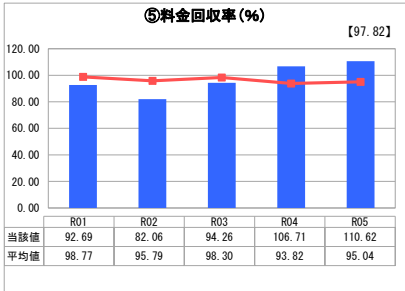
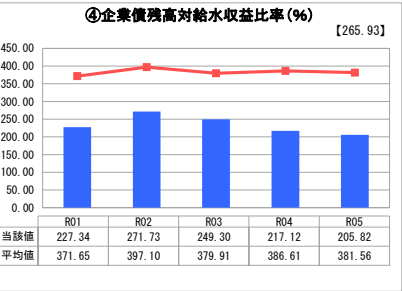
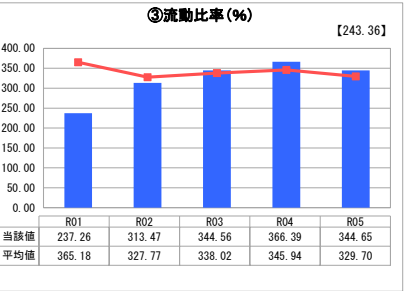
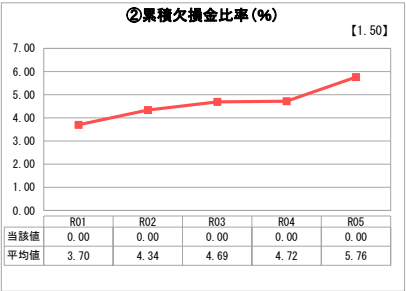
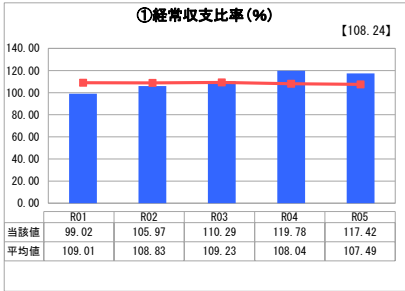
埼玉県 毛呂山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	80.82	99.84	2,593	

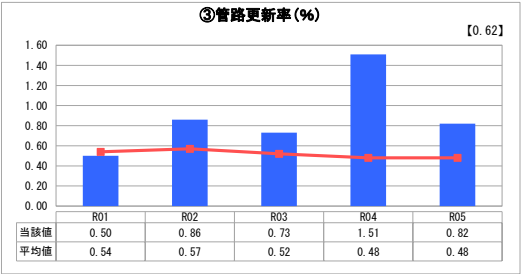
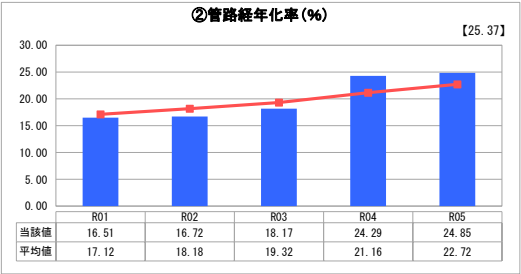
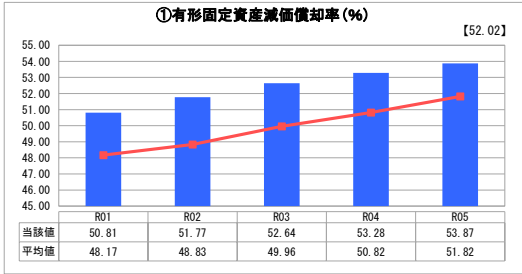
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,365	15.33	2,111.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
32,156	24.20	1,328.76

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
100%を超えており、単年度収支が黒字であることを示している。

③流動比率
類似団体の平均を超えており、また100%も大きく超えているが、今後の給水収益の減少を踏まえると、引き続き経営努力が必要である。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体と比較しても低くなっている。今後も適正な借入を検討して必要がある。

⑤料金回収率
料金改定に伴い、料金収入が増加したため、類似団体及び100%を超える状況維持されている。

⑥給水原価
類似団体平均より低く抑えられているが、前年度より上昇している。経費削減など経営努力が必要である。

⑦施設利用率
比率が50%を下回り、前年より下がってしまった。今後の水を踏まえて施設のダウンサイジング等の検討が必要である。

⑧有収率
類似団体の平均は上回っているが、前年度より下回ってしまっている。効率的な管路更新が必要である。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
年々増加傾向にあり、類似団体の平均も超えている。施設・管路などの老朽化が進んでいるため、今後も計画的に更新をしていく必要がある。

②管路経年化率
大幅に上昇した前年度を、さらに上回っている。耐用年数に達し、更新時期を迎えた管路が増えてきている。今後は積極的な老朽管の更新を実施していく必要がある。

③管路更新率
類似団体の平均は超えているものの、前年度より大きく下回ってしまった。経年化率も上昇しているため、更新率を上げていくよう努力が必要である。

全体総括

経営の健全性については、令和3年10月に行った料金改定の影響もあり、財政面について改善傾向にある。しかし、施設面については、老朽化が進んでおり、年々悪化している状況である。

今後予測される人口減少に伴い、水需要も減少が予想されているので、経営の健全性をこのまま維持することは難しいと考えられる。

施設更新時には、スペックダウンや、ダウンサイジングなどを検討し、将来の水需要に合った検討をしていく必要がある。また、施設・管路の長寿命化など効率化に努め、また、広域化も含め事務の更なる見直しを行い、合理化を進めていく必要がある。